

世界のトップアスリートが選ぶ陸上競技投てき用具

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第063号
名称（型式等）	株式会社ニシ・スポーツ船橋工場の投てき用具製作
所在地	株式会社ニシ・スポーツ船橋工場
	千葉県船橋市豊富町 1483-3
設立年	本社：昭和 26（1951）年、船橋工場：昭和 56（1981）年

選定理由

株式会社ニシ・スポーツは、東京都江東区に本社を置く、昭和 26（1951）年創業の陸上競技専門メーカーで、陸上競技用器具の国内シェアは約 80%を誇ります。ニシ・スポーツ製の陸上競技用具は、昭和 51（1976）年の鹿児島国体で採用されたのを皮切りに、国内外の主要大会で使用されるようになり、平成 11（1999）年には国内メーカーで初めて、世界陸連（WA）に器具認定されています。中でも、千葉県船橋工場で作られるハンマー、砲丸、円盤、やりなどの投てき用具は、昭和 63（1988）年のソウルオリンピックから令和 3（2021）年の東京オリンピックまで 9 大会連続で器具採用されるなど、数多くの世界大会で採用され、高い評価を得ています。

ニシ・スポーツでは「すべてはアスリートのために」というスローガンのもと、選手からのヒアリングや大学などの研究機関との連携を活かして器具の開発を行い、それをもとに船橋工場の専属職人が製作を担当します。ハンマーの製作を例に挙げると、選手の手からハンマーの重心までが遠いほど遠心力が大きく働き飛距離が伸びるため、ハンマーヘッドと呼ばれる球の中心部分に 300 度に熱した鉛とタングステンを流し込み、重心位置を規格の範囲内（中心から 6mm 未満）で外側にずらします。職人の手作業によるため、狙い通りに重心を調整するには熟練の技術が要求されますが、他社では真似のできないこの工程を経ることで、より遠心力を獲得しやすい世界最高品質のハンマーに仕上がります。

オリンピックで使用される投てき用具は、世界陸連（WA）の承認品の中から組織委員会が選定し、「公式採用用具」として数種類が会場に準備されます。選手はその中から自分に合ったものを選んで使用することができます。ニシ・スポーツ製の投てき用具は、平成 8（1996）年のアトランタオリンピックで、男子砲丸投のアメリカ選手が使用して金メダルを獲得したことで評判となり、「ニシ・スポーツ」の名が世界中に広まりました。平成 20（2008）年の北京オリンピックでは、ハンマー投げ・砲丸投げの男女金メダリスト全員がニシ・スポーツ製を使用するなど、世界のトップアスリートから選ばれています。



ダクタイル鑄鉄製のハンマー素材。中央の空洞部分に 300 度に熱した鉛とタングステンを注入します。重心位置を調整する手法は企業秘密。



左：重心検査器上で安定したハンマー。規格内に重心があることを確認します。右：オレンジ色に塗装され WA のシールが貼られた完成品。

協力：株式会社ニシ・スポーツ

参考資料：株式会社ニシ・スポーツホームページ

オリンピック・パラリンピックで活躍する千葉の匠展（平成 27 年度 現代産業科学館）